

## 平成 25 年度 大分大学 2 次試験前期日程 (数学問題)

工・経済・教育福祉・医学部 平成 25 年 2 月 25 日

- 工学部 [1] [2] [3] [4] 数 I・II・III・A・B・C (100 分)
- 経済学部 [1] [2] [3] [6] 数 I・II・A・B (100 分)
- 教育福祉科学部 [2] [3] [5] 数 I・II・A・B (80 分)
- 医学部 [7] [8] [9] 数 I・II・III・A・B・C (80 分)

[1]  $n$  を 9 以上の自然数とする. 袋の中に  $n$  個の球が入っている. このうち 6 個は赤球で残りは白球である. この袋から 6 個の球を同時に取り出すとき, 3 個が赤球である確率を  $P_n$  とする.

- (1)  $P_{10}$  を求めなさい.
- (2)  $\frac{P_{n+1}}{P_n}$  を求めなさい.
- (3)  $P_n$  が最大となる  $n$  を求めなさい.

[2] 連立不等式  $\begin{cases} y \geq |2x - 3| \\ y \leq x \end{cases}$  の表す領域を  $D$  とする.

- (1) 領域  $D$  を図示しなさい.
- (2)  $a$  を 2 でない正の定数とする. 点  $(x, y)$  が領域  $D$  内を動くとき,  $ax + y$  の最大値と最小値, およびそのときの点  $(x, y)$  を求めなさい.
- (3) 点  $(x, y)$  が領域  $D$  内を動くとき,  $x^2 + y^2$  の最小値とそのときの点  $(x, y)$  を求めなさい.

[3]  $\triangle OAB$  において,  $\overrightarrow{OA} = \vec{a}$ ,  $\overrightarrow{OB} = \vec{b}$ ,  $|\vec{a}| = \sqrt{3}$ ,  $|\vec{b}| = \sqrt{2}$ ,  $\vec{a} \cdot \vec{b} = t$  とする. 点  $A$  から直線  $OB$  に垂線  $AP$  を下ろし, 点  $B$  から直線  $OA$  に垂線  $BQ$  を下ろし, 直線  $AP$  と直線  $BQ$  の交点を  $R$  とする.

- (1)  $t$  の範囲を求めなさい.
- (2)  $\overrightarrow{OP}$  を  $t$  と  $\vec{b}$  で,  $\overrightarrow{OQ}$  を  $t$  と  $\vec{a}$  で表しなさい.
- (3)  $t = 1$  のとき,  $\overrightarrow{OR}$  を  $\vec{a}$  と  $\vec{b}$  で表し,  $|\overrightarrow{OR}|$  を求めなさい.

4  $f(x) = \log 2x$  とし、曲線  $y = f(x)$  を  $C$  とする。曲線  $C$  と  $x$  軸との交点における曲線  $C$  の接線  $l$  の方程式を  $y = g(x)$  とする。

- (1) 直線  $l$  の方程式を求めなさい。
- (2)  $h(x) = g(x) - f(x)$  ( $x > 0$ ) とおくと、 $h(x) \geq 0$  ( $x > 0$ ) であることを示しなさい。また、 $h(x) = 0$  となる  $x$  の値を求めなさい。
- (3) 曲線  $C$  と直線  $l$  と直線  $x = \frac{1}{2}e$  で囲まれた部分の面積  $S$  を求めなさい。

5  $a$  を実数とする。直線  $y = 3x - a$  を  $l$  とし、曲線  $y = 2x^3 - 3x$  を  $C$  とする。

- (1)  $a = 0$  のとき、直線  $l$  と曲線  $C$  の共有点の座標を求めなさい。
- (2) 直線  $l$  と曲線  $C$  の共有点の個数が3個となるように  $a$  の範囲を求めなさい。

6  $a, b, c, k$  を実数とし、 $k > 0$  とする。2次関数  $f(x) = ax^2 + bx + c$  は  $f(0) = 9$ ,  $f(-1) = 16$  をみたす。また、関数  $f(x)$  について、 $x$  に関する恒等式

$$f'(x) = 6x - 9k - 4 + \int_0^k f(t) dt$$

が成り立つ。ただし、 $f'(x)$  は  $f(x)$  の導関数とする。

- (1)  $f(x)$  を求めなさい。
- (2)  $k$  の値を求めなさい。

7 次の問いに答えよ。

- (1) 次の  $x$  と  $y$  に関する連立方程式を解け。ただし、 $a$  と  $b$  は実数の定数とする。

$$\begin{cases} ax + y = 1 \\ x + by = 1 \end{cases}$$

- (2)  $\cos x \geq 1 - \frac{x^2}{2}$  ( $0 \leq x \leq \frac{\pi}{2}$ ) を証明せよ。
- (3) 不定積分  $\int e^{ax} \sin bx dx$  を求めよ。ただし、 $a$  と  $b$  は実数の定数とする。

8 数列  $\{x_n\}$ ,  $\{y_n\}$ ,  $\{z_n\}$  の間に次の漸化式が成立する.

$$x_{n+1} = 2x_n, y_{n+1} = 3x_n + y_n, z_{n+1} = x_n - 2y_n + 3z_n \quad (n = 1, 2, 3, \dots)$$

このとき, 次の問いに答えよ.

- (1) 初項  $(x_1, y_1) = (2, 0)$  に対して, 一般項  $x_n$  と  $y_n$  を求めよ.
- (2) 数列  $\{a_n\}$  が定数  $c, d, r, s$  に対して, 関係  $a_{n+1} = ra_n + cs^n + d$  で定義されるとき,  $f_n = ps^n + q$  ( $n = 1, 2, 3, \dots$ ) が次式を満たすように定数  $p$  と  $q$  を求めよ. ただし,  $r \neq s, r \neq 0, 1, s \neq 0, 1$  とする.

$$a_{n+1} + f_{n+1} = r(a_n + f_n) \quad (n = 1, 2, 3, \dots)$$

- (3) 初項  $(x_1, y_1, z_1) = (2, 0, 0)$  に対して, 一般項  $z_n$  を求めよ.

9 曲線  $y = x^2$  の上を動く点  $P(x, y)$  がある. この動点の速度ベクトルの大きさが一定  $C$  のとき, 次の問いに答えよ. ただし, 動点  $P(x, y)$  は時刻  $t$  に対して  $x$  が増加するように動くとする.

- (1)  $P(x, y)$  の速度ベクトル  $\vec{v} = \left( \frac{dx}{dt}, \frac{dy}{dt} \right)$  を  $x$  で表せ.
- (2)  $P(x, y)$  の加速度ベクトル  $\vec{\alpha} = \left( \frac{d^2x}{dt^2}, \frac{d^2y}{dt^2} \right)$  を  $x$  で表せ.
- (3) 半径  $r$  の円,  $x^2 + (y - r)^2 = r^2$  上を速度ベクトルの大きさが一定  $C$  で動く点  $Q$  があるとき, この加速度ベクトルの大きさを求めよ.
- (4) 動点  $P$  と  $Q$  の原点  $(0, 0)$  での加速度ベクトルの大きさが等しくなるときの半径  $r$  を求めよ.

解答例

$$\boxed{1} \quad (1) \quad P_{10} = \frac{{}_6C_3 \times {}_4C_3}{{}_{10}C_6} = \frac{20 \times 4}{210} = \frac{8}{21}$$

$$(2) \quad P_n = \frac{{}_6C_3 \times {}_{n-6}C_3}{{}_n C_6}, \quad P_{n+1} = \frac{{}_6C_3 \times {}_{n-5}C_3}{{}_{n+1}C_6} \text{ より}$$

$$\begin{aligned} \frac{P_{n+1}}{P_n} &= \frac{{}_6C_3 \times {}_{n-5}C_3}{{}_{n+1}C_6} \times \frac{{}_n C_6}{{}_6C_3 \times {}_{n-6}C_3} \\ &= \frac{{}_{n-5}C_3}{{}_{n-6}C_3} \times \frac{{}_n C_6}{{}_{n+1}C_6} \\ &= \frac{n-5}{n-8} \times \frac{n-5}{n+1} = \frac{(n-5)^2}{(n+1)(n-8)} \end{aligned}$$

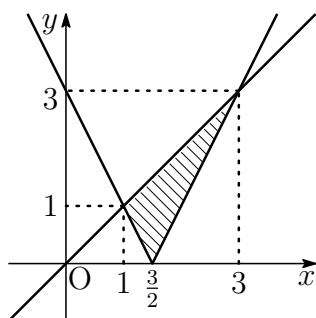
(3) (2) の結果から

$$\frac{P_{n+1}}{P_n} - 1 = \frac{(n-5)^2}{(n+1)(n-8)} - 1 = \frac{3(11-n)}{(n+1)(n-8)}$$

したがって  $P_9 < P_{10} < P_{11} = P_{12} > P_{13} > P_{14} > \dots$

よって、 $P_n$  が最大となる  $n$  の値は  $n = 11, 12$  ■

- 2 (1)  $D$  の表す領域は図の斜線部分で、境界を含む.



- (2)  $f(x, y) = ax + y$  とおく. (1) の結果から,  $D$  における  $f(x, y)$  の最大値と最小値は, 次の3つの値

$$f(1, 1) = a + 1, \quad f\left(\frac{3}{2}, 0\right) = \frac{3}{2}a, \quad f(3, 3) = 3a + 3$$

の中から選べばよいので ( $a$  は2でない正の定数)

$$f\left(\frac{3}{2}, 0\right) - f(1, 1) = \frac{1}{2}(a - 2)$$

$$f(3, 3) - f\left(\frac{3}{2}, 0\right) = \frac{3}{2}a + 3 > 0$$

$$f(3, 3) - f(1, 1) = 2a + 2 > 0$$

よって 点  $(3, 3)$  で最大値  $3a + 3$

$0 < a < 2$  のとき点  $\left(\frac{3}{2}, 0\right)$  で最小値  $\frac{3}{2}a$

$2 < a$  のとき点  $(1, 1)$  で最小値  $a + 1$

- (3)  $D$  において  $x^2 + y^2$  の最小値を与える点  $(x, y)$  は, 2点  $(1, 1)$ ,  $\left(\frac{3}{2}, 0\right)$  を結ぶ線分上にあるから, この点を  $(t, -2t + 3)$  とおくと  $\left(1 \leq t \leq \frac{3}{2}\right)$

$$\begin{aligned} x^2 + y^2 &= t^2 + (-2t + 3)^2 \\ &= 5t^2 - 12t + 9 \\ &= 5\left(t - \frac{6}{5}\right)^2 + \frac{9}{5} \end{aligned}$$

よって  $t = \frac{6}{5}$  すなわち 点  $\left(\frac{6}{5}, \frac{3}{5}\right)$  で最小値  $\frac{9}{5}$  をとる.



- 3 (1)  $\vec{a}$  と  $\vec{b}$  のなす角を  $\theta$  とすると

$$\vec{a} \cdot \vec{b} = |\vec{a}| |\vec{b}| \cos \theta = \sqrt{3} \sqrt{2} \cos \theta \quad \text{ゆえに} \quad t = \sqrt{6} \cos \theta$$

$$-1 < \cos \theta < 1 \text{ であるから} \quad -\sqrt{6} < t < \sqrt{6}$$

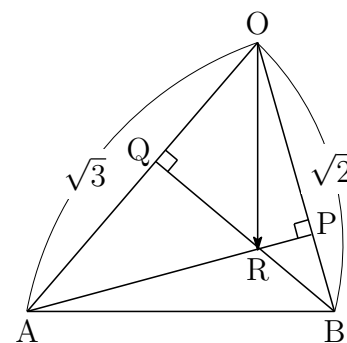
- (2)  $\vec{OP} = k\vec{b}$  とおくと  $\vec{AP} = k\vec{b} - \vec{a}$

$\vec{AP} \perp \vec{b}$  であるから

$$(k\vec{b} - \vec{a}) \cdot \vec{b} = 0$$

$$k|\vec{b}|^2 - \vec{a} \cdot \vec{b} = 0$$

$$\text{ゆえに} \quad k = \frac{\vec{a} \cdot \vec{b}}{|\vec{b}|^2} = \frac{t}{2} \quad \text{よって} \quad \vec{OP} = \frac{t}{2} \vec{b}$$



$$\text{同様に, } \vec{OQ} = k'\vec{a} \text{ とおくと} \quad k' = \frac{\vec{a} \cdot \vec{b}}{|\vec{a}|^2} = \frac{t}{3} \quad \text{よって} \quad \vec{OQ} = \frac{t}{3} \vec{a}$$

$$\text{補足} \quad \vec{OP} = \frac{(\vec{OA} \cdot \vec{OB})}{|\vec{OB}|^2} \vec{OB} = \frac{t}{2} \vec{b}, \quad \vec{OQ} = \frac{(\vec{OA} \cdot \vec{OB})}{|\vec{OA}|^2} \vec{OA} = \frac{t}{3} \vec{a}$$

- (3)  $t = 1$  のとき, (2) の結果から  $\vec{OP} = \frac{1}{2} \vec{b}$ ,  $\vec{OQ} = \frac{1}{3} \vec{a}$

R は直線 AP 上の点であるから, 実数  $s$  を用いて

$$\vec{OR} = (1-s)\vec{OA} + s\vec{OP} = (1-s)\vec{a} + \frac{s}{2}\vec{b} \quad \dots \textcircled{1}$$

$\vec{a} = 3\vec{OQ}$ ,  $\vec{b} = \vec{OB}$  であるから, 上式より

$$\vec{OR} = 3(1-s)\vec{OQ} + \frac{s}{2}\vec{OB}$$

また, R は直線 QB 上の点でもあるから

$$3(1-s) + \frac{s}{2} = 1 \quad \text{ゆえに} \quad s = \frac{4}{5}$$

$$\text{これを} \textcircled{1} \text{ に代入して} \quad \vec{OR} = \frac{1}{5} \vec{a} + \frac{2}{5} \vec{b}$$

$$\begin{aligned} \text{また} \quad |\vec{OR}| &= \frac{1}{5} |\vec{a} + 2\vec{b}| = \frac{1}{5} \sqrt{|\vec{a}|^2 + 4\vec{a} \cdot \vec{b} + 4|\vec{b}|^2} \\ &= \frac{1}{5} \sqrt{3 + 4 \cdot 1 + 4 \cdot 2} = \frac{\sqrt{15}}{5} \end{aligned}$$



4 (1)  $x$  軸との交点の  $x$  座標は  $\left(\frac{1}{2}, 0\right)$

$$f(x) = \log 2x \text{ より } f'(x) = \frac{1}{x}, f'\left(\frac{1}{2}\right) = 2$$

$$\text{直線 } l \text{ の方程式は } y = 2\left(x - \frac{1}{2}\right) \text{ すなわち } y = 2x - 1$$

(2) (1) の結果から  $g(x) = 2x - 1$  より

$$\begin{aligned} h(x) &= g(x) - f(x) \\ &= (2x - 1) - \log 2x \end{aligned}$$

$x$	(0)	$\cdots$	$\frac{1}{2}$	$\cdots$
$h'(x)$		-	0	+
$h(x)$		$\searrow$	0	$\nearrow$

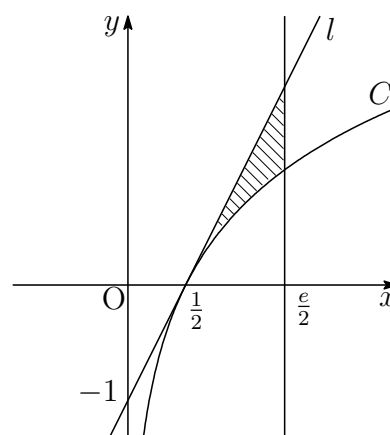
$$\text{ゆえに } h'(x) = 2 - \frac{1}{x} = \frac{2x - 1}{x}$$

$h(x)$  の増減は、右の表のようになり、 $h(x) \geq 0$  ( $x > 0$ ) が成り立つ。

また、 $h(x) = 0$  となる  $x$  の値は  $x = \frac{1}{2}$

(3)  $S$  は、右の図の斜線部分の面積であるから

$$\begin{aligned} S &= \int_{\frac{1}{2}}^{\frac{e}{2}} (2x - 1 - \log 2x) dx \\ &= \left[ x^2 - x \log 2x \right]_{\frac{1}{2}}^{\frac{e}{2}} \\ &= \frac{e^2 - 2e - 1}{4} \end{aligned}$$



5 (1)  $a = 0$  より, 連立方程式  $\begin{cases} y = 3x \\ y = 2x^3 - 3x \end{cases}$  を解いて

$$(0, 0), (\sqrt{3}, 3\sqrt{3}), (-\sqrt{3}, -3\sqrt{3})$$

(2)  $l: y = 3x - a$  と  $C: y = 2x^3 - 3x$  の共有点の個数は, 方程式

$$-2x^3 + 6x = a$$

の実数解の個数に等しい.

関数  $y = -2x^3 + 6x$  について

$$\begin{aligned} y' &= -6x^2 + 6 \\ &= -6(x+1)(x-1) \end{aligned}$$

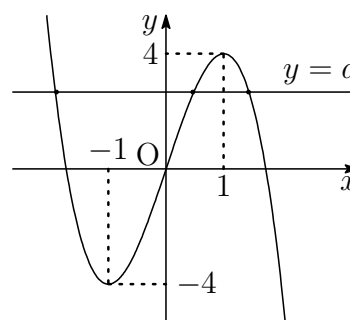
$y$  の増減表は, 右のようになる.

よって,  $y = -2x^3 + 6x$  のグラフは, 右の図のようになる.

求める  $a$  の値の範囲は, このグラフと直線  $y = a$  が異なる 3 個の共有点をもつ範囲であるから

$$-4 < a < 4$$

$x$	...	-1	...	1	...
$y'$	-	0	+	0	-
$y$	↘	極小 -4	↗	極大 4	↘



6 (1)  $f(0) = 9$  より  $c = 9$

$f'(x) = 2ax + b$  より, 恒等式の  $x$  の係数を比較して  $a = 3$  したがって,  $f(x) = 3x^2 + bx + 9$ . これに  $x = -1$  を代入すると

$$f(-1) = 3 - b + 9 = 16 \quad \text{ゆえに} \quad b = -4$$

よって  $f(x) = 3x^2 - 4x + 9$

(2) (1) の結果から,  $f'(x) = 6x - 4$ . これと恒等式の定数項を比較して

$$\begin{aligned} -9k - 4 + \int_0^k (3t^2 - 4t + 9) dt &= -4 \\ -9k + \left[ t^3 - 2t^2 + 9t \right]_0^k &= 0 \\ k^3 - 2k^2 &= 0 \end{aligned}$$

$k > 0$  に注意してこれを解くと  $k = 2$

7 (1) 連立方程式  $\begin{cases} ax + y = 1 \\ x + by = 1 \end{cases}$  から,  $y$  および  $x$  をそれぞれ消去すると

$$(ab - 1)x = b - 1, \quad (ab - 1)y = a - 1$$

i)  $ab - 1 \neq 0$  のとき  $x = \frac{b - 1}{ab - 1}, y = \frac{a - 1}{ab - 1}$

ii)  $ab - 1 = 0$  のとき,  $b = \frac{1}{a}$  より与えられた連立方程式は

$$\begin{cases} ax + y = 1 \\ x + \frac{1}{a}y = 1 \end{cases} \quad \text{すなわち} \quad \begin{cases} ax + y = 1 \\ ax + y = a \end{cases}$$

となる. したがって

$a \neq 1$  のとき 解なし

$a = 1$  のとき  $x + y = 1$  である任意の  $x, y$

$$\text{よって} \begin{cases} ab \neq 1 \text{ のとき} & x = \frac{b - 1}{ab - 1}, y = \frac{a - 1}{ab - 1} \\ ab = 1 \text{ かつ } a \neq 1 \text{ のとき} & \text{解なし} \\ a = b = 1 \text{ のとき} & x + y = 1 \text{ である任意の } x, y \end{cases}$$

(2)  $0 \leq x \leq \frac{\pi}{2}$  において,  $1 - \cos x \geq 0$  であるから

$$\int_0^x (1 - \cos t) dt \geq 0 \quad \text{ゆえに} \quad x - \sin x \geq 0$$

さらに  $\int_0^x (t - \sin t) dt \geq 0$  ゆえに  $\frac{x^2}{2} + \cos x - 1 \geq 0$

よって  $\cos x \geq 1 - \frac{x^2}{2} \quad \left(0 \leq x \leq \frac{\pi}{2}\right)$

$$(3) \quad \begin{aligned} (e^{ax} \sin bx)' &= ae^{ax} \sin bx + be^{ax} \cos bx \\ (e^{ax} \cos bx)' &= -be^{ax} \sin bx + ae^{ax} \cos bx \end{aligned}$$

上の2式から  $(ae^{ax} \sin bx - be^{ax} \cos bx)' = (a^2 + b^2)e^{ax} \sin bx \quad \dots (*)$

i)  $b = 0$  のとき  $\int e^{ax} \sin bx \, dx = \int 0 \, dx = C \quad (C \text{ は積分定数})$

ii)  $b \neq 0$  のとき,  $a^2 + b^2 \neq 0$  であるから,  $(*)$  より

$$\int e^{ax} \sin bx \, dx = \frac{e^{ax}}{a^2 + b^2} (a \sin bx - b \cos bx) + C \quad (C \text{ は積分定数})$$

補足  $(*)$  から  $a^2 + b^2 \neq 0$  のとき

$$\int e^{ax} \sin bx \, dx = \frac{e^{ax}}{a^2 + b^2} (a \sin bx - b \cos bx) + C \quad (C \text{ は積分定数})$$

であるから, 次の解答もよい.

i)  $a^2 + b^2 \neq 0$  すなわち  $(a, b) \neq (0, 0)$  のとき

$$\int e^{ax} \sin bx \, dx = \frac{e^{ax}}{a^2 + b^2} (a \sin bx - b \cos bx) + C \quad (C \text{ は積分定数})$$

ii)  $a^2 + b^2 = 0$  すなわち  $(a, b) = (0, 0)$  のとき

$$\int e^{ax} \sin bx \, dx = \int 0 \, dx = C \quad (C \text{ は積分定数})$$

■

**8** (1)  $\{x_n\}$  は, 初項が2, 公比が2の等比数列であるから

$$x_n = 2 \cdot 2^{n-1} = 2^n$$

したがって,  $y_{n+1} = 3x_n + y_n$  より  $y_{n+1} - y_n = 3 \cdot 2^n$

$$n > 1 \text{ のとき} \quad \sum_{k=1}^{n-1} (y_{k+1} - y_k) = \sum_{k=1}^{n-1} 3 \cdot 2^k$$

$$y_n - y_1 = \frac{6(2^{n-1} - 1)}{2 - 1}$$

$$y_n = 3 \cdot 2^n - 6$$

$n = 1$  のときも成り立つので  $y_n = 3 \cdot 2^n - 6$

(2)  $a_{n+1} = ra_n + cs^n + d$  より

$$a_{n+1} - ra_n = cs^n + d \quad \cdots \textcircled{1}$$

$a_{n+1} + f_{n+1} = r(a_n + f_n)$ ,  $f_n = ps^n + q$  より

$$\begin{aligned} a_{n+1} - ra_n &= -f_{n+1} + rf_n \\ &= -(ps^{n+1} + q) + r(ps^n + q) \\ &= p(r-s)s^n + q(r-1) \quad \cdots \textcircled{2} \end{aligned}$$

$$\textcircled{1}, \textcircled{2} \text{ より } \quad cs^n + d = p(r-s)s^n + q(r-1)$$

これが  $n$  についての恒等式であるから

$$c = p(r-s), \quad d = q(r-1)$$

$$\text{このとき, } r \neq s, r \neq 1 \text{ より } \quad \mathbf{p} = \frac{c}{r-s}, \quad \mathbf{q} = \frac{d}{r-1}$$

(3)  $z_{n+1} = x_n - 2y_n + 3z_n$  に (1) の結果を代入すると

$$z_{n+1} = 2^n - 2(3 \cdot 2^n - 6) + 3z_n \quad \text{ゆえに} \quad z_{n+1} = 3z_n - 5 \cdot 2^n + 12$$

(2) の  $a_n$  に  $z_n$  を適用すると  $r = 3, c = -5, s = 2, d = 12$

$$\text{また } p = \frac{-5}{3-2} = -5, \quad q = \frac{12}{3-1} = 6 \quad \text{ゆえに} \quad f_n = -5 \cdot 2^n + 6 \quad \cdots \textcircled{3}$$

このとき,  $z_{n+1} + f_{n+1} = 3(z_n + f_n)$  より

$$z_n + f_n = (z_1 + f_1) \cdot 3^{n-1} = (0 - 4) \cdot 3^{n-1} = -4 \cdot 3^{n-1} \quad \cdots \textcircled{4}$$

$$\textcircled{3}, \textcircled{4} \text{ より } \quad \mathbf{z_n} = \mathbf{5 \cdot 2^n - 4 \cdot 3^{n-1} - 6}$$

$$\text{別解 } z_{n+1} = 3z_n - 5 \cdot 2^n + 12 \text{ より } \quad \frac{z_{n+1}}{3^{n+1}} - \frac{z_n}{3^n} = -\frac{5}{3} \left(\frac{2}{3}\right)^n + 4 \left(\frac{1}{3}\right)^n$$

したがって,  $n > 1$  のとき

$$\begin{aligned} \sum_{k=1}^{n-1} \left( \frac{z_{k+1}}{3^{k+1}} - \frac{z_k}{3^k} \right) &= \sum_{k=1}^{n-1} \left\{ -\frac{5}{3} \left(\frac{2}{3}\right)^k + 4 \left(\frac{1}{3}\right)^k \right\} \\ \frac{z_n}{3^n} - \frac{z_1}{3} &= 5 \left(\frac{2}{3}\right)^n - 6 \left(\frac{1}{3}\right)^n - \frac{4}{3} \\ z_n &= 5 \cdot 2^n - 4 \cdot 3^{n-1} - 6 \end{aligned}$$

$n = 1$  のときも, 上式は成り立つ. よって  $z_n = 5 \cdot 2^n - 4 \cdot 3^{n-1} - 6$  ■

9 (1)  $y = x^2$  より  $\frac{dy}{dt} = \frac{dy}{dx} \cdot \frac{dx}{dt} = 2x \frac{dx}{dt} \dots \textcircled{1}$

$$|\vec{v}| = C \text{ より } |\vec{v}|^2 = \left(\frac{dx}{dt}\right)^2 + \left(\frac{dy}{dt}\right)^2 = C^2 \dots \textcircled{2}$$

①を②に代入すると

$$\left(\frac{dx}{dt}\right)^2 + \left(2x \frac{dx}{dt}\right)^2 = C^2 \text{ ゆえに } (1+4x^2) \left(\frac{dx}{dt}\right)^2 = C^2$$

$$\frac{dx}{dt} > 0 \text{ であるから } \frac{dx}{dt} = \frac{C}{\sqrt{1+4x^2}} \dots \textcircled{3}$$

$$\textcircled{1}, \textcircled{3} \text{ から } \vec{v} = \left(\frac{dx}{dt}, \frac{dy}{dt}\right) = \frac{dx}{dt}(1, 2x) = \frac{C}{\sqrt{1+4x^2}}(1, 2x)$$

(2) (1)の結果から

$$\begin{aligned} \frac{d^2x}{dt^2} &= \frac{d}{dt} \left(\frac{dx}{dt}\right) = \frac{d}{dt} \left(\frac{C}{\sqrt{1+4x^2}}\right) \\ &= \frac{d}{dx} \left(\frac{C}{\sqrt{1+4x^2}}\right) \cdot \frac{dx}{dt} \\ &= \frac{-4Cx}{(1+4x^2)^{\frac{3}{2}}} \cdot \frac{C}{\sqrt{1+4x^2}} = \frac{-4C^2x}{(1+4x^2)^2} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \frac{d^2y}{dt^2} &= \frac{d}{dt} \left(\frac{dy}{dt}\right) = \frac{d}{dt} \left(2x \frac{dx}{dt}\right) \\ &= 2 \frac{dx}{dt} \cdot \frac{dx}{dt} + 2x \frac{d^2x}{dt^2} \\ &= 2 \left(\frac{C}{\sqrt{1+4x^2}}\right)^2 + 2x \cdot \frac{-4C^2x}{(1+4x^2)^2} = \frac{2C^2}{(1+4x^2)^2} \end{aligned}$$

$$\text{よって } \vec{\alpha} = \left(\frac{d^2x}{dt^2}, \frac{d^2y}{dt^2}\right) = \frac{2C^2}{(1+4x^2)^2}(-2x, 1)$$

解説 関数  $y = f(x)$  について,  $y' = \frac{dy}{dx}$ ,  $y'' = \frac{d^2y}{dx^2}$  とおくと

$$\frac{dy}{dt} = \frac{dy}{dx} \cdot \frac{dx}{dt} = y' \frac{dx}{dt}$$

$$\left(\frac{dx}{dt}\right)^2 + \left(\frac{dy}{dt}\right)^2 = C^2 \text{ より } (1 + y'^2) \left(\frac{dx}{dt}\right)^2 = C^2$$

$$\frac{dx}{dt} > 0 \text{ であるから } \frac{dx}{dt} = \frac{C}{\sqrt{1 + y'^2}}$$

$$\text{ゆえに } \vec{v} = \left(\frac{dx}{dt}, \frac{dy}{dt}\right) = \frac{dx}{dt}(1, y') = \frac{C}{\sqrt{1 + y'^2}}(1, y')$$

$$\begin{aligned} \frac{d^2x}{dt^2} &= \frac{d}{dt} \left(\frac{dx}{dt}\right) = \frac{d}{dt} \left(\frac{C}{\sqrt{1 + y'^2}}\right) \\ &= \frac{d}{dx} \left(\frac{C}{\sqrt{1 + y'^2}}\right) \cdot \frac{dx}{dt} \\ &= \frac{-C y' y''}{(1 + y'^2)^{\frac{3}{2}}} \cdot \frac{C}{\sqrt{1 + y'^2}} = \frac{-C^2 y' y''}{(1 + y'^2)^2} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \frac{d^2y}{dt^2} &= \frac{d}{dt} \left(\frac{dy}{dt}\right) = \frac{d}{dt} \left(y' \frac{dx}{dt}\right) \\ &= y'' \frac{dx}{dt} \cdot \frac{dx}{dt} + y' \frac{d^2x}{dt^2} \\ &= y'' \left(\frac{C}{\sqrt{1 + y'^2}}\right)^2 + y' \cdot \frac{-C^2 y' y''}{(1 + y'^2)^2} = \frac{C^2 y''}{(1 + y'^2)^2} \end{aligned}$$

$$\text{よって } \vec{\alpha} = \left(\frac{d^2x}{dt^2}, \frac{d^2y}{dt^2}\right) = \frac{C^2 y''}{(1 + y'^2)^2}(-y', 1)$$

したがって, 一定の速度で曲線  $y = f(x)$  上を運動する動点の速度ベクトル  $\vec{v}$  と加速度ベクトル  $\vec{\alpha}$  は垂直である.

また, 時刻  $t$  を変数とする動点  $(x(t), y(t))$  の速度ベクトル  $\vec{v}$  の大きさが一定であるとき

$$|\vec{v}|^2 = \left(\frac{dx}{dt}\right)^2 + \left(\frac{dy}{dt}\right)^2$$

は定数であるから, これを  $t$  で微分すると

$$2 \frac{dx}{dt} \frac{d^2x}{dt^2} + 2 \frac{dy}{dt} \frac{d^2y}{dt^2} = 0 \quad \text{すなわち} \quad \left(\frac{dx}{dt}, \frac{dy}{dt}\right) \cdot \left(\frac{d^2x}{dt^2}, \frac{d^2y}{dt^2}\right) = 0$$

よって, 速度ベクトル  $\vec{v}$  と加速度ベクトル  $\vec{\alpha} = \left(\frac{d^2x}{dt^2}, \frac{d^2y}{dt^2}\right)$  は垂直である.

(3) 円周上の点  $Q(x, y)$  を  $x = r \cos \theta$ ,  $y = r + r \sin \theta$  とおくと

$$\frac{dx}{dt} = -r \sin \theta \frac{d\theta}{dt} \quad \frac{dy}{dt} = r \cos \theta \frac{d\theta}{dt} \quad \dots (*)$$

$|\vec{v}| = C$  より,  $|\vec{v}|^2 = \left(\frac{dx}{dt}\right)^2 + \left(\frac{dy}{dt}\right)^2 = C^2$  であるから

$$\left(-r \sin \theta \frac{d\theta}{dt}\right)^2 + \left(r \cos \theta \frac{d\theta}{dt}\right)^2 = C^2 \quad \text{ゆえに} \quad \left(\frac{d\theta}{dt}\right)^2 = \frac{C^2}{r^2}$$

上の結果に注意して (\*) を  $t$  で微分すると

$$\begin{aligned} \frac{d^2x}{dt^2} &= -r \cos \theta \left(\frac{d\theta}{dt}\right)^2 & \frac{d^2y}{dt^2} &= -r \sin \theta \left(\frac{d\theta}{dt}\right)^2 \\ &= -\frac{C^2}{r} \cos \theta & &= -\frac{C^2}{r} \sin \theta \end{aligned}$$

ゆえに  $\vec{\alpha} = \left(\frac{d^2x}{dt^2}, \frac{d^2y}{dt^2}\right) = \frac{C^2}{r}(-\cos \theta, -\sin \theta)$  よって  $|\vec{\alpha}| = \frac{C^2}{r}$

(4) (2) の結果から, 原点における  $P$  の加速度は  $\vec{\alpha} = (0, 2C^2)$

この点における  $P$  の加速度の大きさは  $|\vec{\alpha}| = 2C^2$

これと (3) で求めた加速度の大きさが等しいので

$$\frac{C^2}{r} = 2C^2 \quad \text{よって} \quad r = \frac{1}{2}$$

解説 (4) で求めた円の半径は, 放物線  $y = x^2$  の原点における曲率円 (接触円) の半径である. 九大 2009 年一般前期理数数学 **3**, **5** の解説を参照 <sup>1</sup> ■

<sup>1</sup>[http://kumamoto.s12.xrea.com/nyusi/Qdai\\_ri\\_2009.pdf](http://kumamoto.s12.xrea.com/nyusi/Qdai_ri_2009.pdf)